

10.11 三里塚闘争について、1万3千の大結集！

「用水粉碎・革マル弾効！」を宣言

日刊

動労千葉

82.10.13

No. 1168

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二二五八・九・八（公衆電話）二二七二〇七

動労千葉四五〇の部隊先頭に 三三五〇の労働者隊列で登場

十・一一三里塚現地集会は、ふりしきる雨もものもせず、全国から一万三五〇〇名を結集して開かれ、用水粉碎、革マル弾効を宣言し、二期工事阻止闘争勝利にむけて大きな前進をかちとった。

動労千葉は、秋年闘争の突破口としての十・一一集会四五〇名の大動員をかちとった力を基礎に、五七・一一合理化、秋季反戦闘争を全労働者の先頭で闘うとともに「三里塚を闘う労働運動」の全国的拡大をめざし、さらに決起するものである。

用水粉碎・二期勝利の確信を 深める

十・一一三里塚集会以ちとった第一の意義は、「成田用水」に対し、反対同盟が絶対反対の立場を鮮明にすると同時に、二期阻止勝利の展望を確信をもって提起したことである。

いうまでもなく「成田用水」は、巨額の金の投入をもって反対同盟農民を買収し、二期着工をはかるうとする政府・空港公団による断じて許すことのできない反対同盟分断・解体攻撃である。

こうした悪質な攻撃に対し、集会で用地内を代表して発言にたった小川嘉吉さんは「用水をやるなら反対同盟の看板はずして自由にやってくれ、土地は絶対売らない。金や権力にまけない。これが私達が闘ってきた十七年間だ。」と公団や用水推進者への怒りに身をふるわせ、勝利するまで闘い抜く決意を明らかにした。これこそ三里塚闘争の原則であり、まったく正しい路線である。

われわれは、このことを回答として共に闘おうではないか。

政府・公団・権力の先兵

革マル弾効決議をかちとる

十・一一三里塚集会以ちとった意義の第二は、三里塚闘争や動労千葉の闘いははじめ全国のあらゆる闘いに敵対をくり返す革マルに対し、断固たる弾効とあらゆる職場、学園、地域、戦線からの追放・一掃が決議されたことである。

革マルは、デマ機関紙「解放」に、「北原事務局長が権力と密通」「三里塚闘争の終えん」なるデマ記事と合成写真をデッチ上げ、政府・公団の先兵として三里塚闘争破壊にうってでてきた。

革マルは、国鉄労働運動内部においても、動労「本部」を牛耳り、「働こう運動」の推進、ブル



「トレ」現協の大裏切り、緊急十一項目への協力など、当局の先兵として国労、動労千葉解体に国鉄労働運動解体攻撃を強めている。

権力・国鉄当局の手先・革マルに対する弾効決議は当然であり、三里塚闘争の爆発に恐怖する革マルの、権力と一体となった反対同盟破壊のための「北原密会説」は完全に粉碎されたのである。

動労千葉四五〇、国労一五〇の 決起をかちとる

十・一一三里塚集会以ちとった第三の意義は、動労千葉四五〇名を先頭に国労一五〇名、労組連三五〇〇名の一大隊列を実現したことである。

動労千葉は、定期大会において、「三里塚、反合を闘う労働運動」路線の再確立と当面する十・一一三里塚への全力決起を決定した。

大会以降の全支部の奮闘は、四五〇名の動員を実現し、五七・一一合理化、秋季反戦闘争を闘う突破口を切り開いたのである。

さらに労組連三五〇〇名の飛躍的決起とりわけ「三里塚、反合」路線を通じた国労一五〇名の決起は、四十万国鉄労働者の決起をおさえる革マルを打倒し、国鉄労働運動の戦線的再生をかちとる大きな展望を切りひらいたといえる。

われわれは、十・一一三里塚闘争でかちとった意義を打ち固め、突破口に緊急十一項目をはじめとする国鉄労働運動解体攻撃と対決し、十・二一、十・二四反戦・反核闘争の大高揚をかちとり、戦争と反動の道を阻止しようではないか。